



営農NEWS



トマト栽培において黄化葉巻病の伝染を絶つ 防除を徹底しましょう

病害虫発生予報 10 月号（県病害虫防除所）によると、9 月上旬現在、抑制トマト栽培において、黄化葉巻病の発生は平年並～やや多く、発病株の早期な抜き取りと、促成トマト栽培での防除の徹底を呼びかけています。

促成栽培では、トマト黄化葉巻ウイルスを媒介するタバココナジラミ類の育苗および本圃施設への侵入を防虫ネットの展張などで阻止し、さらに殺虫剤による防除を徹底して、発病を抑制しましょう。

また、抑制栽培では、発病株を早期に適切に処分し、栽培後は蒸し込処理などを徹底して、産地における伝染源の撲滅を図りましょう（発病が確認された株は早急に抜き取り、施設外に持ち出し、ビニール袋内などで腐熟させるか、土中深く埋めるなど適切に死滅処分しましょう）。

〔トマト黄化葉巻病の総合防除〕

ウイルスを媒介するタバココナジラミ類防除の基本として、施設内に虫を①入れない、②そこで増殖させないことが重要です。①の施設に入れない対策としては、出入口や天窓・側窓など施設の開口部に防虫ネット（目合い 0.4 mm 以下）を設置します。また、害虫の飛来源、ウイルスの保毒源となる雑草や野良生えなどのトマトは、常に除草や抜き取りを徹底してください。

次に、②の施設内でタバココナジラミ類やウイルスを増殖させない対策としては、定植時に殺虫剤などを処理し、さらに栽培中はトマトを注意深く観察して早期発見に努め、早期防除や発病株の処分を徹底します。また、施設内に黄色の粘着トラップを設置して微小害虫を誘引し、密度の抑制を図るほか、薬剤防除適期の目安にします。薬剤は下記の表 1 を参考に作期全般における総使用回数を考慮して選択し、また抵抗性害虫の出現を防ぐため、ローテーション散布が必要です。

さらに、③栽培が終了した後の対策としては、施設内の微小害虫が逃げ出す前にハウス内の蒸し込み処理などで死滅させて、施設周辺におけるタバココナジラミ類の密度低下を図ることが必要です。微小害虫は飛翔しますので、周辺を含め地域全体での連携した共同防除が重要になります。

表 1 トマト、ミニトマトにおけるコナジラミ類の主な防除薬剤（平成 28 年 10 月 13 日現在）

薬 剤 名	対象作物		使用量または希釈倍率	使用時期／使用回数
	トマト	ミニトマト		
ベストガード粒剤※	○	○	5 g／培土 1ℓ 混和	播種時または鉢上げ時／1 回
	○	○	または 1～2 g／株 株元処理	育苗期／1 回
	○	○	50 g／セル成型育苗トレイ 1 箱またはパ・パ・ポット 1 冊 (30×60cm、使用土壌約 1.5～4ℓ) 散布	育病期後半／1 回
	○	○	または 1～2 g／株 植穴処理土壌混和	定植時／1 回
ベリマーク S C	○		400 倍を 25ml／株または 800 倍を 50ml／株 灌注	育病期後半～定植当日／1 回
プレバソンフロアブル 5	○	○	100 倍を 25ml／株または 200 倍を 50ml／株 灌注	育病期後半～定植当日／1 回
スタークル顆粒水溶剤※	○	○	100 倍 セル成型育苗トレイ 1 箱またはパ・パ・ポット 1 冊 (30×60cm、使用土壌約 1.5～4ℓ) 当り 0.5ℓ 灌注	定植時／1 回
	○	○	2,000～3,000 倍	収穫前日まで／2 回以内
アニキ乳剤	○	○	1,000～2,000 倍	収穫前日まで／3 回以内
コルト顆粒水和剤	○	○	4,000 倍	収穫前日まで／3 回以内
コロマイト乳剤	○	○	1,500 倍	収穫前日まで／2 回以内
ディアナ S C	○	○	2,500 倍	収穫前日まで／2 回以内
エコピタ液剤（気門封鎖型）	○	○	100～200 倍	収穫前日まで／－

注）※印の付した薬剤は、ネオニコチノイド系です。同一系統薬剤の連続使用は、避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040